

**主 題：ヨード：神のことばと苦しみの中での正しい応答 1**  
**聖書箇所：詩篇 119篇73-80節**

私たち人間はみな、救われていようと救われていまいとだれでも、非常に大きな困難に飲み込まれるときに、神々の前にひざまづき祈り求めます。人間はだれであっても、人生の様々な状況の中で、それが自分たちが支配できないものであると感じるときに、それが私たちが大きく苦しめるときに、神々の顔を慕い求めます。ですから、クリスチャンであってもノンクリスチャンであっても、神を信じている者であってもそうでない者であっても、みな困難な状況の中では、そこからの解放を祈り求め、病の中にあっては癒しを求め、危険の中では守られることを求めます。でも、皆さん思いませんか？人間はだれしもそのように祈るのですが、私たちクリスチャンは神を知らない人たちと同じ祈りをしているべきではないと、そのように思いませんか？

私たちがそのような困難な状況にあるときに、私たちがその状況に対して応じる生き方は、未信者が神を知らない人たちがするものとは違うべきであると私たちは分かっているはずですが、けれども、余りそのことを考えたくない私たちはそのことを認めたくないのですが、余りにも多くのときに、クリスチャンである、神を知っていると言う私たち自身が、その困難な状況に対する応答やその中での祈りは、神を知らない人たちがしている祈りや応答とほとんど変わらない、いやむしろ、全く同じものであることに私たちは気づかされます。私たちの祈りは多くの要求に満ちています。私たちが自分の頭で考えてこれが最善だということに基づいて、神に様々な要求を突きつけます。人生の多くの問題に対する私たちの応答は、ほとんどの場合、落胆や苛立ちや憤りに特徴づけられています。それは、この世が、神を知らない人たちがする応答と何ら変わりのあるものではありません。

私たちはキリストにある信仰者としてそれが正しくないことを知っています。そのような神を知らない人たちと同じような祈りを祈り、同じような応答することが良くない、正しくないということを私たちは分かっているのです。それゆえに、どこかに違いがなければいけないということを私たちは理解はしています。けれども、余りにも多くのときに、私たちのほとんどはそれを自分の生涯の中で実践していないのです。けれども、私たちが今日皆さんといっしょに見ていこうとするこの詩篇の著者はそうではありませんでした。彼が祈った祈りは、私たちの多く、また、この世の人たちとは大きく異なる祈りでした。困難の中で彼が取った応答は、この世の中の人たちが取るような応答とは大きく違うのです。今朝、この詩篇119篇の第10詩文節、73節から80節までの間に記されているこの著者の祈りを見ていきます。彼が心から願っていたことです、彼が困難の中にあってどのように応答していくのか、その姿がここには書き記されています。そこに私たちは非常に重要な真理を見出すことが出来ます。教えられます。そして、著者が私たちに対して様々な問題に、様々な困難に、試練にどのように立ち向かっていくべきかということ、自らの見本をもって示してくれているその姿を見出すことが出来ます。

この八つの節の中で、著者は私たちがどのように、いや、私たちが何を祈らなければならないのか、そして、私たちが何を目指さないといけないのか、そして、私たちがどのように人生の様々な試練、困難、苦しみに立ち向かっていくべきなのか、応答すべきなのかを教えてください。私の心からの願いは、この第10詩文節、「ヨード」というヘブライ語の文字で始まる73節から80節を皆さんと注意深く詳しく見ていく中で、私たちもこの著者と同じように、神が与えてくださる様々な試練に対して、主の前に正しい、神に喜ばれる応答していくことを学ぶことが出来ればと思います。どんな祈りを私たちはすべきなのか、何を目指しどのように応答していくべきなのか、非常に大切な事柄を著者は教えてください。彼が何を言っているのか見てゆきましょう。みことばを読みましょう。

**詩篇19：73-80**

:73 あなたの御手が私を造り、私を形造りました。どうか私に、悟りを与えてください。私があなただけの仰せを学ぶようにしてください。

:74 あなたを恐れる人々は、私を見て喜ぶでしょう。私が、あなたのことばを待ち望んでいるからです。

:75 主よ。私は、あなたのさばきの正しいことと、あなたが真実をもって私を悩まされたことを知っています。

:76 どうか、あなたのしもべへのみことばのとおり、あなたの恵みが私の慰めとなりますように。

:77 私にあなただけのあわれみを臨ませ、私を生かしてください。あなたのみおしえが私の喜びだからです。

:78 どうか高ぶる者どもが、恥を見ますように。彼らは偽りごとをもって私を曲げたからです。しかし私は、あなたの戒めに思いを潜めます。

:79 あなたを恐れる人々と、あなたのさとしを知る者たちが、私のところに帰りますように。

:80 どうか、私の心が、あなたのおきてのうちに全きものとなりますように。それは、私が恥を見ることのないためです。

まず、最初に私たちは、この著者が記すこと、私たちに教えてくれる、手本として示してくれること、私たちがいったい何を祈らなければならないのか、祈るべきなのかということについて見ていきます。今朝は73節しか見ません。ですから、著者が言おうとしていることをじっくりと皆さんに見ていただきたいと思います。彼はここで私たちに、人生の様々な困難の中にあって祈るべき事柄が何なのかを教えてください。すでに冒頭で私が言ったように、私たちの祈りは多くの場合、私たちの願いに満ちあふれています。違いますか？私たちが自分で考えて、このようにすればきっと私たちの様々な困難は解決していくという結論に基づいていろんな願いをしていくのです。事実、多くの場合に、私たちは実際に願いをしているのではなく、むしろ、神に対して要求をしています。「こうであるべきです、だからこうしてください。（もしかすると）こうしなさい！」と言っているかもしれません。自分たちが起こして欲しいことを念頭に置いて、「神さま、これが必要なのです。これをしてください。」とその要求を、そのリストを突き出すのです。だから、私たちの祈りのほとんどは、私たちが最善だと思っている状態や状況の実現のための願いごとなのです。それゆえに、私たちは病のときは「神さま、どうぞ癒してください」と。危険があるときは「神さま、どうぞ守ってください」、困難のあるときは「神さま、どうぞ導いてください、助けてください。」と祈ります。

けれども、この著者が書いていることを見ていくとすぐに分かることは、それはこの著者の祈りではなかったということです。誤解しないでください。病のときに「癒してください」と願うことが悪いと言っているのではありません。でも、それが私たちの願いの一番先頭にあるべきかどうかという問題なのです。困難の状況の中で「神さま、私を助けてください」と言うことが悪いのではありません。聖書を見たときに、そのような祈りが多くささげられています。神はそれが間違っているとは言いません。けれども、私たちが何を本当に祈り求めていくべきなのかを私たちはまず覚えておかなければいけないのです。そして、それを著者は私たちに示してくれるのです。私たちが覚えておかなければいけないことは、著者がこの祈りをささげたその状況は、彼の人生がバラ色のときではなかったということです。もうすでにこれまでこの詩篇119篇を見て学んで来たように、皆さんがお読みになればすぐお分かりのように、彼の周りには敵がたくさんいました。彼らは彼を責め、彼に関して偽りを述べて、彼の立場を悪くし、彼の人生に様々な困難を具体的にもたらし、果ては、彼のいのちまでも狙っていた訳です。彼は具体的な危険の中、困難の中にあって生活をしていたのです。著者は神の御座の前に祈りをもって出て行くときに、涙声で、まるでわがままな子どものように「神さま、助けてくれなければいけません！」と言っているのではありません。

彼は何を求めましたか？73節を見て分かることは、彼は「悟りを与えてください。」と願いました。彼は理解が欲しかったのです。彼はもっともっと知りたかったのです。そして、これこそがまさに私たちクリスチャンが常に、たとえ、それが良い状況であったとしても、それが悪い状況であったとしても、私たちが望むことであったとしても望まない事柄の中にあつたとしても、祈っていなければいけないことなのです。「神さま、どうぞ、理解を与えてください」と。なぜ、わずかこの1節に時間を費やすのか、それはこれが非常に重要だからです。皆さんにそのことをよく理解していただきたいからです。そして、皆さんがなぜ著者がこの祈りをしたのかということが分かるときに、私たちも同じように祈るべきだということを知ることが出来ます。知ることが出来るだけでなく、この祈りを祈り、その祈りに神が答えていく中で、私たちがどんな困難な状況にあつても、どんな試練のときであっても、どんな喜びのときであっても、常に変わらずに、神を称え神に感謝して生きていくことが出来ることを知るようになるだろうと思います。ですから、今日、時間をかけて詳しく見ていきます。

この73節で三つのことを見ることが出来ます。

#### A. 苦難の中で私たちが祈るべき三つのこと 73節

私たちが「理解をください。悟りを与えてください。」という祈りをするに当たって、分かっているなければならない三つの事柄です。

##### 1. 神がだれであるのかを知る

73節の初めに「あなたの御手が私を造り、私を形造りました。」とあります。余り注意深く考えずにこの節を読むと、突然、このような表現が出て来るかのように私たちは感じてしまいます。けれども、著者はこのことばを非常に深い意味をもって語っています。そして、それは私たちが困難の中にあつて神に祈っていく中で、覚えておかなければいけない大切な事実なのです。著者がここで祈っていることは

私たちが日常にする祈りとそれほど大きな差はありません。皆さんが祈るとき、最初に「天の父なる神さま」と言いませんか？この礼拝の中でもすでに私も何回か祈りましたが、その度に私は祈りの最初に「神さま」と言いました。私は以前にこんな話を聞いたことがあります。私たちが祈りの初めに「天の神さま、父なる神さま」と言うのは、私たちがだれに対して祈っているのかを明確に表わしておかなければ、神はそれが自分に向かって祈られているのかどうか分からないからだ。もし、皆さんが少しでもそのようなことを思っておられるなら、その思いを霊的なゴミ箱に捨ててください。なぜならば、神は皆さんがだれに向かって祈っているのかを、だれよりもよくご存じだからです。事実、神は私たちの祈りのことばが口から出てくる前に、その思いが心の中に湧き上がる前に、その祈りをご存じです。それゆえに、私たちが祈るときに「神さま」と言うのは、私たちが神に宛先をつけておかなければいけないからではないのです。

私たちが「神さま、〇〇さま、イエスさま」と言わずに祈ったとしても、その祈りが後で宛先不明のスタンプがついて私たちの元に戻って来ることはないのです。必ず、神のところに行くのです。けれども、この著者も私たちもいつも「神さま、父なる神さま、天におられる神さま、まことの神さま、全知全能の神さま」と、祈り始めます。なぜですか？多分、この部分で私たちのもっている祈りに関する理解と、この著者がもっている理解とが大きく違うのだらうと思います。

彼はここで「あなたの御手が私を造り、私を形造りました。」と記しています。そのように神についての彼の理解を口にして表わしています。ここで言っていることは非常にはっきりしています。単純に、神が私を造ってくださった、神が私の創造主だと言っています。二つの動詞が使われています。「造る」と「形造る」と似た訳がされていますが、使われている単語が違います。多くの注解者は、

「造る」＝私たちの外面上のありとあらゆるもの、具体的な私たちのパーツ、手や指、内蔵や関節などの部分一つひとつを神が造ってくださったという意味合いで捉え、そのような表現がされている。

「形造る」＝実際には「確立する、確かにする」という意味合いがあり、それは私たちの内面、私たちの特徴、個性を神は造ってくださっている。

と言います。私もその通りだと思います。つまり、この著者が言うことは「神さま、あなたは私の造り主です。あなたは私をこの姿、形に造られ、このような特徴をもって、このような人格をもって、このような性格をもって私を造ってくださいました。」ということです。

そのことは、彼が神の御座の前に祈りをもって進んでいこうとするときに非常に重要な知識です。特に、このような困難の中にあってはそうです。彼は神が自分のすべてを造ってくださった方であるがゆえに、神は彼の必要も彼の限界も知っておられるということです。彼を造ってくださった方は、だれよりも彼のことを知っていて、その肉体的な特徴の一つひとつだけでなく、性格やもっている内的な性質のすべてに至るまで、だれよりも良くご存じだと言うのです。先ほども触れたように、この神が創造主であること、神がだれであるのか、神が私の内も外も造ってくださったということを知ることに、大きな意味合いがあります。特に、大切なことが二つあると思います。それは、神が「私たちの限界」と「私たちの必要」をよく知っているということです。こういうことです。

### (1) 神は私たちの限界を知っている

神がご自身の手で、私たちの外側も内側も、ありとあらゆる事柄を造ってくださったとするならば、神は私が何が出来て、何が出来ないのかをよくご存じなのです。私の特徴を考えたときに、私の理解力を考えたとき、能力を考えたときに、私の身長、手の長さを考えたときに、神は私に何が出来て、私に何が出来ないかをよくご存じなのです。だれよりも確かなのです。その神は私たちに、私たちが出来ないことを要求すると思いますか？どうですか、皆さん。この神は私たちが様々な困難な中にいる時に、私たちに対して私たちが負うことが出来ないような問題を私たちに投げつけるとは思いますか？私たちのすべてを良くご存じの神は、私たちが何が出来て何が出来ないのかをよくご存じであるがゆえに、私たちが担うことが出来る重荷しか与えることをしない方なのです。

### (2) 神は私たちの必要を知っている

それだけではありません。この神は単に私たちの限界を知っているだけでなく、私たちの必要もよくご存じであることを覚えておかないといけません。私たちは神によって造られました。そして、この姿形をもって生まれて来ました。この特徴をもって私たちは生まれて来た訳です。確かに、罪に犯されているゆえに、神の望むような者ではないかと思いますが、でも、もっているこの特徴も姿形も神が備えてくださったものです。著者はそのように言います。聖書はそのことを私たちに教えます。神が私たちに形造ってくださったと。その神は私たちに対して一つの目的をもっています。それは私たちがこの身をもって、この存在をもって神のすばらしさを現わすことであり、具体的に言うならば、それは私たち

がキリストに似た者となることではありませんか？つまり、私たちにはなるべき姿というものがあるのです。あるべき姿があって、今の私たちがいます。そこには大きなギャップがある訳です。今の私たちが神が望んでいるような者になっていくために、神は単に私たちが何で来て出来ないかを知っているだけでなく、何が必要なかをよくご存じなのです。いったい、どの分野で私たちが成長しなければいけないのか？いったい、どの分野で試されないといけないのか？そのことを神はだれよりもよくご存じなのです。

昨夜、うちの子どもが「眠れない」と言って起きて来ました。彼にはいろんな悩みがあるようでいろいろと話をしました。私が父親として話をしながら、また、話をした後、また今、何を思い悩むと思えますか？子どもは一生懸命自分の抱えている問題を伝えようとするのですが、ことばが足りないので、その問題が何なのかを、私が十分に理解することが出来ないのです。人と話をしているそのようなことはありませんか？十分に分かったとしても、彼が本当に葛藤している真の部分がどこにあるのか、それがどんな具体的な内容なのか、私たちは明確に知ることが出来ないのです。ものすごくじれったいと思いませんか？何とか助けてあげたいのです。何とかその問題を解決して神に喜ばれるような者へと成長して行って欲しいと願うがゆえに、いろいろと話をします。でも、私には彼の限界がどこにあるのかも分からないし、彼の具体的な必要が何なのかははっきりと分からないのです。だから、親として出来る限りの知恵を用いて、神のみことばに照らし合わせながら、何とか子どもたちがその問題を解決して進んでいくことが出来るように話しかけます。皆さんもきっとそのようにされるでしょう。

でも、思いませんか？話している最中も、話し終わった後も今も、この話をしながら私は心の中で思っています。本当に自分は正しいことを伝えたかな？子どもが聞かなければいけないことを語ったかな？本当に今もっている必要を満たすことが出来るような話をしたのかなど。神は私たちに接して下さるにときにそのように悩まないのです。神は私たちの姿形を、内側をすべて造られ、その細部に至るまでよくご存じであるがゆえに、私たちがどんな問題を抱え、どんな困難を覚えているのかをだれよりもよく知っているのです。そして、私たちがそれに打ち勝って、よりキリストに似た者へと変わっていくために必要なものが具体的に何であるかをよくご存じなのです。神が与えるものに無駄なものは何一つありません。神が備えて下さるものに不必要なものは何一つないのです。

神は私たちに、私たちがもたなければならぬ大切なレッスンを与えてくださいます。神がだれであるのかという深い理解のもとに、私たちはそれをしっかりと受け入れるべきです。神が確かに私を形造り、私を支配し、私の限界も必要もご存じである方であるとしっかりと分かっているゆえに、私たちは神の前に信頼をもって立つことが出来るのです。それがこの著者が先ず教えたことです。

## 2. 何が必要なのかを知る

著者は、私たちは神がだれであるのかを知らなければならぬだけでなく、私たちは困難なときに何が必要なのかを知らなければならぬと言います。もしかすると、皆さんは「なぜ、そんな馬鹿げた質問をするのですか？」と言うかもしれません。なぜなら、私たちは困難なときに必要なものが何かは分かっていると思うからです。だから、私たちは言います。「私たちは困難の中で助けが必要です。守りが必要です。」と言って、神に「あれをしてください。これをしてください。こうしてください。」と祈ります。私たちはあたかも本当の必要が何であるかを知っているかのように振る舞っているのですが、著者は「私たちはそれがよく分かっている」と言うのです。本当に私たちが求めなければいけないもの、私たちにとって必要なものは別なところにあると言います。彼は私たちがするような祈りをしませんでした。彼が求めたのは「私に悟りを与えてください。」だったのです。

このような願いを彼がするのはこれが最初ではありませんし、最後でもありません。実に、著者はこの詩篇の中で何度も繰り返して同じ願いをします。

119：27 「あなたの戒めの道を私に悟らせてください。」

119：34 「私に悟りを与えてください。」

119：125 「私はあなたのしもべです。私に悟りを授けてください。」

119：144 「…私に悟りを与えて、私を生かしてください。」

119：149 「主よ。あなたの決めておられるように、私を生かしてください。」

彼は自分のもっていた非常に激しい困難の中であって、神に対する理解が必要であることを何よりもよく知っています。彼がそれを求めるのは、彼が神について、神のみことばについて何も知らなかったからではありません。事実、119：99や100節を見ると、「私は私のすべての師よりも悟りがあります。」「私は老人よりもわかまえがあります。」と言っています。私たちがこの119篇の内容を読むとき、彼がいかに深いみことばに関する知識をもっていたのかを理解することが出来ます。聖書の中を通

しても、そこに出てくる登場人物の中で、これほど神のみことばについて深い洞察力と、また、知識をもっている人物はいないのではないかと思うほど、彼のみことばに関する、神のすばらしさに関する知識には優れたものです。

その彼が言うのです。「私には悟りが必要です」と。それだけを考えただけでも私たちには悟りが必要だと思いませんか？もっともっと知らなければいけないと思いませんか？正しく理解しないとイケないと思いませんか？彼が願い求めたことは、神の視点に立ってすべてのことを理解できるようにということです。私たちは問題の中であって、問題に囲まれてしまったときに、それが大きな問題であればあるほど、その問題に目が向きます。そして、自分の理解をもってその問題に当たろうとするのです。それゆえに、私たちは先ほどから何度も言うように、困難があったらそこから解放されることを単純に願います。その方がよく見えるからです。けれども、この著者はそのような問題の中であって、確かに、助けられたい、楽になりたい、苦しみよりは安らぎの方が良いことはよく分かっているのですが、同時に、その困難の中にあっても「どうぞ、神さま、あなたが為していること、あなたの求めていることをしっかり理解させてください」と言うのです。

皆さん、この著者が理解していたことは、神が彼を肉体的にも精神的にも霊的にも、神の良い目的のために造っておられ、それを知っているがゆえに、たとえ、それがどれほど大きな困難であろうとも試練であろうとも、先の見えない問題であったとしても、それをういて神がご自身のもっておられる計画を全うしようとしておられるということです。神は計画をもっておられ、その計画を達成しようとして働かれるのです。エレミヤ、また、パウロはこのようなことを告白しています。エレミヤ 1 : 5 「わたしは、あなたを胎内に形造る前から、あなたを知り、あなたが腹から出る前から、あなたを聖別し、あなたを国々への預言者と定めていた。」、ガラテヤ 1 : 15 「けれども、生まれたときから私を選び分け、恵みをもって召してくださった方が、」。これらは、エレミヤやパウロという特別な人物にだけそのような計画があるのではなく、皆さん、私たちは無駄にこの地上に存在していないのです。偶然たまたま生まれて来たのではないのです。神が今の時代に、この瞬間に、私たちがここに生存するように永遠の初めから計画をもってここに存在させてくださっているのです。神は私たちを形造り、ご自身の目的を達成させるために私たち一人ひとりをここに置いてくださっているのです。それを分かっているこの著者は、このような困難な状況の中にあっても、神がその良い目的を達成しようとしてくださっていることを分かるがゆえに、「どうぞ、あなたの働きをもっと理解させてください」と祈るのです。神が目的を達成しようとしているから、自分が困難な中にいることを知っているのです。だから、彼は更なる理解を求めるのです。

皆さん、パウロの場合を考えてください。パウロは肉体のとげをもっていました。Ⅱコリント 12 章にそのことが記されていますが、彼にはそれが与えられたことが苦しみでした。働きが十分に出来ない、働きの妨げとなると思っていました。それゆえにパウロは、神にこれを取り除いてくださいと三度願いました。簡単に言うなら祈り続けたのです。けれども、神の答えは「ノー」でした。それを取り除かないと言うのです。そして、神は「わたしの恵みはその苦しみの中にあって十分だ」と言われます。パウロはこの困難な状況を通して、たとえ、それがどんなものであったとしても、神の恵みが彼を強めるものであることを学びました。それは彼にとって必要なことでした。この肉のとげなしに、彼は「神の恵みは私にとって十分だ」というその真理を理解することが出来たでしょうか？なぜ、神はこの肉のとげをお与えになったのでしょうか？そのレッスンの目的は何でしたか？

パウロは言います。Ⅱコリント 12 : 10 「ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。」と。なぜですか？神の恵みがそこに十分であることを彼は苦しみの中でしっかりと学んだからです。皆さん、考えてください。この肉のとげが与えられる前のパウロと与えられた後のパウロと、どちらのパウロがより神に喜ばれるものだと思いますか？どちらのパウロが神の恵みによりすがるパウロだと思いますか？苦しみが与えられる前のパウロも神の恵みを良く知っていました。それに信頼を置いていましたが、その恵みをよく知っている偉大な使徒パウロが、この肉のとげを経て学んだ姿になったときに、学ぶ前のパウロと学んだ後のパウロとどちらがよりキリストに似た者だと思いますか？答えは明らかです。彼ははっきりと苦しみを通して神のすばらしさを学び、より深い知識をもって神と関わる事が出来るようになったのです。

ヨブの場合はどうでしょう？神はヨブのことを見て、この地上で、今生きている人物の中でこれほどすばらしい人物はいないと宣言されています。これは神の宣言です。ちなみに、ヨブ記のどこを見ても、その宣言が覆されているところはありません。でも、ヨブは皆さんご存じのように困難を経験しました。試練を経験しました。私たちは何が起こったのか知っています。ヨブ記の 1 章、2 章を見ると、そこに書かれているのは、神とサタンがやりあっているところです。それだけを見ていると、ヨブは何とかわ

いそうな人なのだろうと、まるで神とサタンとの争いに巻き込まれてしまった被害者のように見えます。ゲームの駒のように…。だから、神はヨブに試練を与えることを良しとされたのでしょうか？先ほど言ったように、ヨブはこの地上でほかのだれよりも神の前に正しく、神に喜ばれる人物だったのです。ヨブ記1章に記されています。1：8「主はサタンに仰せられた。「おまえはわたしのしもべヨブに心を留めたか。彼のように潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっている者はひとりも地上にはいないのだが。」

ヨブ記の終わりには、試練を経たヨブは、1章に書かれているときのヨブよりもはるかに神をよく知り、神を深く理解し、神を感謝し称える者になったことが記されています。ヨブに試練が与えられたのは、少なくとも、この目的のためです。神の前にすばらしい人物であり信仰の勇者であるヨブが、更なる信仰の勇者と変えられるために、神はこの試練をお与えになったのです。ヨブはヨブ記42：2-6でこのように言います。「：2 あなたには、すべてができること、あなたは、どんな計画も成し遂げられることを、私は知りました。：3 知識もなく、摂理をおおい隠した者は、だれでしょう。まことに、私は、自分で悟りえないことを告げました。自分でも知りえない不思議を。：4 どうか聞いてください。私が申し上げます。私はあなたにお尋ねします。私にお示してください。：5 私はあなたのうわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ました。：6 それで私は自分をさげすみ、ちりと灰の中で悔い改めます。」と。5節「私はあなたのうわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ました。」、ヨブの理解は深まっていますか？神との関係が大きく変わっていませんか？良い者へと益々進められていませんか？

私たちは神が試練をお与えになる中で、そのことをしっかりと理解しておかないといけません。私たちは「自分にとって必要なもの？」と考えたときに、自分の理解の中で良いと思うことを選びます。私たちが良いと感じることを求めます。だから、私たちは困難よりも繁栄を求めます。違いますか？皆さんの中に「神さま、どうぞ私に苦しみを与えてください。」と祈る方はいらっしゃらないでしょう。「どうぞ、私の人生がすばらしいものになるように、神さま、繁栄を与えてください。」と祈ることはあるかもしれません。「神さま、どうぞ私を病に侵してください」と祈る方はいないでしょう。「病から解放してください」と祈るかもしれません。「どうぞ、私の人生に悪いことを起こしてください。」とは祈らないでしょう。「神さま、どうぞ私の人生を良いものにしてください」と祈るでしょう。誤解しないでください。そのような問題の中であってそこから解放してくださいと祈ることが間違っていると言っているのではありません。でも、私たちがしっかりと理解していなければいけないことは、何が本当に必要なのかということです。ときに、私たちに本当に必要なことは、病が癒されることではなくて病の中にいることです。困難から解放されることでなくて困難の中に身を置くことです。パウロが肉のとげを取られなかったように、ヨブがその苦しみの中に置かれ続けたように…。

私たちの人生に私たちが悪いと思うことが起こるときに、私たちはできるだけ早くそこから逃れたいと心から願います。けれども、神はそのような困難を用いて、私たちが神へ近づけてくださるのです。そして、私たちが益々キリストに似た者へと変えてくださるのです。多くのときに、私たちは困難の中で神が為しておられる良いこと、神の良い目的を見出すことができません。だから、悩むのです。だから、苦しむのです。だから、私たちはそのような困難が自分の前にあるときに、それに感謝することがなかなかできないのです。

皆さん覚えていますか？ヤコブはヤコブの手紙1章で「様々な試練に会うときはそれをこの上もない喜びと思いなさい。」と、その一連の話をして行きますが、4節には「その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」とあり、そして、5節に「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。」と続きます。これは試練の話からの続きです。「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、…、」と言います。つまり、忍耐を完全に働かせることができない一つの理由として彼が明確に挙げているのは、私たちに欠けたところがあるからと言うのです。何が欠けていますか？知恵が欠けているのです。理解が欠けているのです。しかも、「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、」と書かれているので、ひょっとすると、知恵の欠けた人と欠けていない人がいるかのように読まれるかもしれませんが、ここで実際に使われている文法を見ると、ここでは「だれもが知恵に欠けているのだから」と言っているのです。そういう表現が使われています。

つまり、だれもがこの試練を通るときは知恵が欠けた状態にいるのです。だから、神に求めなさいと言うのです。まさに、それがこの著者が73節で願っていることです。「神さま、どうぞ私に知恵を与えてください。神さま、どうぞ私をもっと正しく物事を理解することができるようにしてください。問題の中であって、あなたが成そうとしていることをしっかりと知ることができるように、それを分けることができるように、主よ、どうぞ助けてください。」と願うのです。たとえ、その目的、その理由、



その計画が分からなかったとしても、私をもっとみことばを知り、あなたがどのような方であるのかを理解するゆえに、その困難の中にあつてあなたに信頼できるようにしてくださいと言うのです。著者が祈ったことは、ヤコブが私たちに命じていることです。彼はよく分かっていたのです。神が与えてくださる苦しみがどのようなものであるかを、私は確かに正しく理解しなければいけないと。

「確かに、私は多くのみことばを知っているし、ほかの人たちよりも知恵があると言われるかもしれないけれど、でも、私が様々な問題に向かうときに、私はまだまだ神さまが何のために、どこにそれを用いようとして与えてくださっているのかを正しく知らないから、神さま、どうぞ、それを理解することができるようにしてください。」と祈るのです。皆さんそのように祈っていますか？確かに、苦しみの中にいるのはいやです。辛い中に閉じ込められていると感じることは何よりも悲しく、絶望を経験するようなことです。でも、皆さん、神が皆さんにそのような苦しみを与えているのは、神が意地悪だからではないのです。また、神が知らないところで、だれかが悪巧みをして皆さんを苦しめようとして、その苦しみを与えているのでもないのです。

ヨブはそのように感じたかもしれませんが、ヨブにその苦しみを与えるに当たって、サタンは神にその許可をとらなければいけなかったではないですか？神は皆さんの人生に起こるありとあらゆる事柄を支配し、それを皆さんの益のためにお与えになっているのです。たとえ、皆さんがそれをそのように感じなかったとしても…。神は私たちをお造りになったゆえに、私たちの限界を知っているから、私たちが堪えることができないものをお与えになりません。ときに、私たちは「もう堪えられませんか！」と思います。でも、私たち以上に神は私たちのことをよく知っておられます。そして、私たちがキリストに似た者になっていくために、私たちに必要なものを神はよくご存じです。だから、著者は言うのです。

「悟りを与えてください。もっと分からせてください」と。

### 3. どのような人物になるべきかを知る

どんな人物になるべきかを知りなさい。それを知っていなければいけないと言います。単に、神がだれか、何が必要なのか、それを知るだけでなく、どんな人物になるべきかを知りなさいと言うのです。73節の後の部分に「私があなたの仰せを学ぶようにしてください」とあります。実は、この文は目的を表わしています。日本語ではそのように見えないのですが、このように訳すことができます。「私があなたの仰せを学ぶために、どうか、私に悟りを与えてください。」と。彼が求めていたこと、なぜ、悟りを得たかったのか、彼は神の「仰せ」を学びたかったのです。この「仰せ」ということばは、別のことばでは「命令」となります。つまり、「神さま、どうぞ、あなたの命令を学ぶために悟りを与えてください。」と言っているのです。

皆さん、命令を学んだなら、人はどうなると思いますか？命令を学ぶということはそこに何が示唆されていますか？学んだ命令を実際に行なうことです。よく考えてみてください。この詩篇119篇の中では、みことばに対することば、みことばを示すことばがたくさん出てきます。「証」とか「約束」など、他にもいろんなことばが使われていますが、彼はここで他にあらゆることばが使えたにもかかわらず、敢えて「命令」ということばを使うのです。なぜならば、彼が求めていたことは単に神のみことばを知るということだけでなく、神が要求していることを理解するゆえに、自分がそれを実践する者になるということだからです。

彼が理解を求めたこと、彼が悟りが欲しかったのは、それは特別な知識をもつことではなく、自分の疑問に解決を得ることによって満足をしたかったからでもなく、彼は困難の中にあつても神の願うような正しい生涯を生きていくことができるようになりたかったからです。彼には理解が必要でした。正しい道を歩んでいくために理解が必要だったのです。私たちは困難が起こると言い訳をしませんか？「こんな苦しみがあるのだから、霊的にこのように生きなさいと言われてもちょっと難しいのです。今の問題が大きくて私はこれに取りかかりきりだから、神が求めていることができないのです。」と、そのような言い訳をしませんか？「神さま、あなたがこの問題を解決して下さったら、もう少し立派なクリスチャンとして生きていくことができるかもしれないけれど…」と…。著者はそんなことを言わないのです。彼が言うことは「この苦しみの中で私はあなたの命令を忠実に守っていきたいから、どうぞ、益々悟りを与えてください。」です。そのように祈るのです。

正しく、神がどのような方で、何を求めているのかということを理解することによって、この詩篇の著者は自分の創造主である神の前に忠実に歩んでいきたいと心から願っているのです。彼は困難の中にあつて、それが長く続くことによって、ヨブがしたように神のすばらしさから目を逸らしてしまつて、不満の思いを心の中に抱くことをするのではなくて、ヨセフのように、たとえ、他の人がどんな悪を企んだとしても、自分の願うように物事が進まなかったとしても、神に喜ばれるように忠実な歩みをして

いくことができるようになりたいのですと願っているのです。私たちは、神が与えてくださる様々な困難、様々な試練を、成長ができないことの言い訳にするべきではありません。なぜなら、何よりも神が与えてくださる試練や、患難、苦しみは、私たちが信仰において成長するために与えてくださっているからです。ヤコブの手紙にどのように書かれていましたか？「試練があつたらそれをこの上もない喜びとしなさい」でした。信仰が試されると忍耐が生まれて来て、それを十分に働かせるならば、私たちは完全な者になっていくと、ヤコブはそのように言うのです。

パウロはどのように言いましたか？ローマ人への手紙5：3-5でこのように言っています。「そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、：4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。：5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」と。詩篇の著者はもうすでに宣言していました。71節を見てください。「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」と。皆さん、私たちは、たとえば、この「忍耐」という特徴が神に喜ばれる良いものであることを知っています。愛とはどういうものか？愛は忍耐をします。耐え忍ぶものです。私たちクリスチャンが身につけるべき特徴です。皆さん、ご存じでしたか？忍耐は苦しみの中に置かれて初めて生み出すことができることを。皆さんがキリストに似たすばらしい信仰者として、忍耐に満ちた人生を送りたいと心から願うならば、皆さんは苦しみがやって来たときに大いに喜ぶべきだと思いませんか？なぜなら、人生がバラ色のときにどのようにして忍耐を学びますか？周りの人たちが皆さんにあらゆる良いことをしてくれるときに、どのようにして、その人たちに対する忍耐を学びますか？周りの人たちが私たちに敵対し、私たちに苦しめ、私たちに不都合なことを為すときに、様々な問題がたくさんあって、その中で何とかして神に希望をもって、主の前に正しく歩んでいくときに、私たちは初めて忍耐を学ぶと思いませんか？

そのように考えるなら、患難は喜ばしいことではありませんか？私たちがよりキリストに似た者へと近づけてくれるからです。神はその完全な知恵に基づいて、私たちがどのような必要をもっているのかを知っているがゆえに、最もふさわしいときに、最もふさわしい試練を私たちに与えてくださるのです。私たちはそれが最もふさわしい試練であることも知らないし、最もふさわしいときでないと思っているのです。でも、神がそれを与えてくださるのは、神の深い知恵とすばらしい愛のゆえに、私たちにとって必要だからです。

私たちは神のみことばを学んでいく人生を送らなければいけません。私たちが願い求めるべきことは、「神さま、どうぞ悟りを与えてください。」です。「どうぞ、あなたの視点で、今起きているあらゆることを見せてください。あなたが願っていることが何なのか、あなたがこのことを通して為そうとしていることが何なのか、私にはよく分からないから、どうぞ、あなたの目線でそれらを理解することができるように助けてください。」と。でも、どれだけそのように願っても、私たちは神の目線ですべてのことは見ることができないことを私たちはよく知っています。私たちは神ではないから、先のことが分からないから、すべての起きていることを知らないからです。でも、何が分かりますか？神がだれであるのかをみことばを通してしっかりと知ることができるのです。この神は私たちが造り、私たちが形造った方で、外面も内面も、私たちの強さも弱さも、良い点も悪い点もすべてご存じの上で、私たちにふさわしいものを常に与えてくださる愛に満ちた知恵に満ちた主権者である神です。そのことを知っていけば、苦しみの中で、困難の中で益々信頼できると思いませんか？著者は言います。「そのように祈りましょう。私はそう祈りました。あなたもそのように祈ってください。」と。

私たちの困難に対する応答の仕方というのは、神の望むものから大きくかけ離れていることが多いでしょう。苦しみがあると苦しいではないですか。病の中にいるときには健康になりたいと心から願います。神はその思いを悪いと言っておられるのではありません。そのように思ってください。でも同時に、その苦しみもその悲しみもその痛みもその辛さも、その絶望の中にあると思ってしまうような思いも、すべては神が私たちが神へと近づけてくださるすばらしい祝福であることを考えてください。もし、私たちがそのように神の視点で物事を見ることができれば、私たちは苦しみが与えられるたびに、試練が起こるたびに、神への称賛を止めたくなくなるでしょう。神を称えずにはおられなくなるでしょう。私たちは神を信頼しましょう。すばらしい神に目を向けましょう。その神が私たち一人ひとりに豊かに悟りを与えてくださって、今、抱えているあらゆる問題の中で、また、皆さんが喜びのときにあるときはその喜びの中で、益々、神が私たちをご自身に近づけてくださることを願い求め続けていきましょう。